

12月19日(木)

⚙️ 「次世代脳」実行委員会企画プログラム  
「これからの学術領域研究：  
我が国の脳神経科学の更なる発展を目指して」

⚙️ 「次世代脳」実行委員会企画プログラム  
「日本の神経科学～温故知新～」

⚙️ AMED 国際脳プロジェクト 共催プログラム  
「ヒトの脳回路機能の解明に向けて  
～ネズミから探る・サルから探る～」

次世代脳プロジェクト  
冬のシンポジウム 2019



「次世代脳」実行委員会企画プログラム

## 「これからの学術領域研究：我が国の脳神経科学の更なる発展を目指して」

12月19日（木）9:45 - 11:00【一橋講堂】

■高田昌彦・京都大学

■藤山文乃・同志社大学

来年度より「新学術領域研究」の後継として「学術変革領域研究」がスタートし、初回の公募が通常とは異なり来年初めに行われることになっている。また、AMEDにおいても現在、組織改編が検討されており、来年度から新体制の下で様々な研究プロジェクトが推進されることになると思われる。本企画プログラムでは、これらに関する最新情報を共有するとともに、「世代や分野を超えて2020年度以降の脳科学研究をどのように進展させるべきか」という「次世代脳」参加者全員に共通の関心事を取り上げ、政策変化に対応した、我が国の脳神経科学の更なる発展に資する方向性や戦略について議論したい。

### <タイムテーブル>

|              |   |
|--------------|---|
| 9:45 ~ 11:00 | パネルディスカッション<br>【パネリスト（敬称略・五十音順）】<br>磯田 昌岐（生理学研究所）<br>榎本 和生（東京大学）<br>大隅 典子（東北大学）<br>大塚 稔久（山梨大学医学部）<br>岡部 繁男（東京大学）<br>小早川 令子（関西医科大学）<br>田中 謙二（慶應義塾大学）<br>銅谷 賢治（沖縄科学技術大学院大学）<br>鍋倉 淳一（生理学研究所）<br>林（高木） 朗子（理化学研究所）<br>尾藤 晴彦（東京大学） |
|--------------|---|

「次世代脳」実行委員会企画プログラム

## 「日本の神経科学～温故知新～」

12月19日（木）14:10 - 15:40【一橋講堂】

■高田昌彦・京都大学

■古屋敷智之・神戸大学

本企画プログラムでは、次世代を担う若手研究者育成の一環として、我が国の脳神経科学の礎を築かれた著名な先生方の研究や思い出を親しい先生よりご紹介いただくとともに、関連する研究分野で現在ご活躍の先生方にご自身の研究についてご講演いただき、我が国の脳神経科学がどのように継承され発展してきたかを学ぶ機会を提供することを目指している。

第四回は、故・金澤一郎先生を特集する。今回は金澤先生と親交の深かった、神経学がご専門のお二人の先生方にご登壇いただき、在りし日の金澤先生のご研究やお人柄、思い出をご紹介いただく。

金澤一郎先生のご略歴（出典 葛原茂樹「金澤一郎先生を偲ぶ」臨床神経学 56(3),2016）

1967年東京大学医学部卒業。研修後に豊倉康夫教授主宰の東京大学神経内科に入局。1974年英国ケンブリッジ大学に留学、1976年筑波大学臨床医学系神経内科講師、助教授、1990年教授。1991年～2002年東京大学医学部神経内科教授。その間、文部省学術国際局科学官、東京大学医学部附属病院長などを兼任。1996年より日本内科学会理事長、2002年より日本神経学会理事長を歴任。2003年～2007年国立精神・神経センター総長。2006年～2011年日本学術会議会長(第20・21期)。2007年～2008年厚生労働省医道審議会医道分科会部会長、厚生審議会疾病対策部会長、同難病対策委員会委員長を歴任。2007年国際医療福祉大学大学院教授、2011年同大学大学院長。2015年1月国際医療福祉大学大学院名誉大学院長、2002年～2012年宮内庁長官官房皇室医務主管。2013年に瑞宝重光章を受章。

### <タイムテーブル>

|             |  |
|-------------|--|
| 14:10～14:12 | 企画プログラム「日本の神経科学～温故知新～」について<br>高田昌彦（京都大学） |
| 14:12～14:56 | 金澤一郎先生の神経学と脳科学<br>水澤英洋（国立精神・神経医療研究センター）  |
| 14:56～15:40 | バランスの人 金澤一郎先生<br>宇川義一（福島県立医科大学）          |

「次世代脳」実行委員会企画プログラム

## 「ヒトの脳回路機能の解明に向けて ～ネズミから探る・サルから探る～」

(AMED 国際脳プロジェクト 共催)

12月19日(木) 15:55 - 18:00【一橋講堂】

■磯村宜和・東京医科歯科大学

脳の作動原理の解明、精神神経疾患の早期発見・治療の実現、新たな脳型アルゴリズムの開発という今後の脳科学の共通目標を達成するためには、ヒトと非ヒト霊長類とげっ歯類を使った脳回路機能の研究が相互に連携することが理想的である。そこで本企画では、げっ歯類と霊長類の研究者がそれぞれ動物種の特性を活かした最新の研究例を紹介したうえで、どのように種間を越えた連携を実現すればヒトを含む脳回路機能の解明に結びつくのかを議論したい。

### <タイムテーブル>

|               |   |
|---------------|---|
| 15:55 ~ 16:20 | 神経回路機能を規定する $Ca^{2+}$ シグナリングの解明と応用<br>尾藤 晴彦 (東京大学)                                |
| 16:20 ~ 16:45 | 記憶の神経科学的実体<br>井ノ口 馨 (富山大学)  |
| 16:45 ~ 17:10 | 化学遺伝学とイメージングの融合によるサル脳回路操作とその展開<br>南本 敬史 (放射線医学総合研究所)                              |
| 17:10 ~ 17:35 | サルから探るドーパミン信号の多様性とその機能的意義<br>松本 正幸 (筑波大学)   |
| 17:35 ~ 17:40 | 休 憩   |
| 17:40 ~ 18:00 | 総合討論「種間連携による脳回路機能の解明」<br>講演者 (上記)<br>司会：木村 實 (玉川大学 /AMED 国際脳)<br>磯村 宜和 (東京医科歯科大学) |